

授業展開事例②(2時間)

【1時限目テーマ:焼却・埋め立て・リサイクルの環境負荷について考える】

1. 本題材の目標

自分が住むまちの分別ルールをきちんと理解すると同時に、焼却や埋め立て処分にかかる環境負荷や環境破壊について学ぶ。

また、リサイクルをする前に考慮すべきリデュース、リユースについて考えるきっかけを提供する。

2. 準備・資料など

- ・地球イラスト
- ・分別ゲームキット(資源イラストデータ・品目名)
- ・解説用

3. 本時の展開

1限目	時間	内容	ポイント・気づき・学び
導入	5分	●泣いている地球のイラストを黒板に貼り、その上に資源・ごみのイラストを貼りつける。(ごみと資源が分別されておらず、すべてがごみとして捨てられている現状に対して地球が悲しんでいるという想定)	●「どうしたら地球が笑顔になるか」と問いかける。 ●「分別する」「ごみを減らす」などのキーワードを子どもたちから引き出す。
ゲーム	15分	●グループ毎に相談しながら分別ゲームを実施する。	●事前に地域の分別ルールを調べておく。 ●ゲーム性を高めるために、各チーム持ち点10点とし、間違えた分減点とする。
答え合わせ	15分	●分別ゲームの答え合わせ ●資源は何に生まれ変わるかも説明する ●各グループのポイント数を発表する	●分別ルールだけでなく、分別したものが何に生まれ変わるについても学ぶ。
解説	10分	●解説用図を参考に、黒板に各流れを書きながら解説する。 ①可燃ごみの解説:運搬にはエネルギーがかかり、CO ₂ を排出することを伝える。 ②不燃ごみの解説:運搬にはエネルギーがかかること、埋め立て場は山や海などにあるため自然を破壊することを伝える。 ③リサイクルの解説:リサイクルするにも、運搬・選別・再製品化にエネルギーがかかることを伝える。	●焼却、埋め立て、リサイクル、それぞれに環境負荷がかかることに気付く。 ●環境負荷をできるだけ減らすために、可燃ごみ、不燃ごみ、資源の量を減らすことができないかを問いかけ、2時限目につなげる。

■ 授業展開例についての補足説明

- ・まずは、各地域の分別ルールをきちんと把握することを目的に分別ゲームを実施します。
- ・自分の家で行っている分別方法を思い出しながらゲーム感覚で楽しく学ぶ場とします。
- ・黒板にグループ表を書き、各グループの持ち点がわかるようにしておきます。
- ・分別ゲームでは減点法とし、2時限目のアイデア出しは加点法とします。

【イメージ】

グループ名	持ち点	分別ゲーム	アイデアポイント	最終ポイント
A	10	-2	+4	12
B	10	-3	+2	9
C	10	-1	+4	13
D	10	-4	+5	11

- ・解説の最後に「分別ができて地球は喜んでいるけれど、もっと笑顔にするために、可燃ごみ・不燃ごみ・資源の量を減らすことができないか、考えてみましょう。」と投げかける。